

# 会議録

会議名	第3回高知市立学校のプールの今後の在り方に関する検討委員会
日時	令和5年7月25日（火）18時00分～20時00分
場所	高知市役所たかじょう庁舎6階 会議室
出席者	<p>《検討委員会委員》</p> <p>柳林信彦委員，松本憲誠委員，斉木邦政委員，藤田奈々委員， 高橋潤委員，和田享仁委員，中村仁也委員，中井昭秀委員， 岡崎隆太委員，中野浩史委員，吉村建太郎委員，岡村大委員</p> <p>欠席者：柚村誠委員，青屋憲介委員，安河内聖委員，</p> <p>《事務局》</p> <p>松下整教育長，山中浩介教育次長，植田浩二教育次長， 教育政策課：岸田正法課長 学校教育課：竹内清貴課長， 学校環境整備課：高橋直人課長，奥宮磨美課長補佐，露谷真也係長 武市和丈主査補，藤村雄作主査</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高知市立学校のプールの今後の在り方に関する検討委員会 第3回 検討資料」</li> <li>・「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 【抜粋】」</li> <li>・「Let's Long Swim!!」</li> </ul>
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 教育長挨拶</li> <li>3 議題</li> </ol> <p>(1)高知市立学校のプールの今後の在り方に関する答申書の各項目の検討</p>
委員長	<p>皆さんこんにちは。お忙しい中，ありがとうございます。では，私の方で議事を進めさせて頂きたいと思っております。机上配布されている会次第に基づきまして，3番議題のところからとなっておりますので，議題のところから入りたいと思っておりますが，第1回，第2回目を通しまして，第1回目はどちらかという全体としての本会のミッションについての確認をしながら，第2回におきましては，本検討委員会として何を検討していくと，方向性，結論が見えてくるのかなということの，検討の項目ですよね。これも資料であれば，今日の第3回検討資料1枚めくって頂いて，一応前回の建付けというか，設定としては答申の項目という感じにしておりましたが，要はそれを我々が最終的に本協議会としての，多分7番の学校プール施設の今後のあり方のところになるわけですけれども，これに至るところまでにどういった事実を認定し，またどういった現状について把握して行くのかっていうのをですね。こういう形で1番から，2番，3番，4番，5番，6番という形で，事実を確</p>

認して行き判断の材料としていく中で7番に至るとい形でこの項目でいけるだろうと言うことを皆様にご判断頂くところになっているということでございます。

1回目、2回目を通しまして、私としてはですね、どちらかという、これは私の議事進行の問題だから反省するところもあるんですが、できるだけ具体レベルの話をやはりイメージが膨らまないといけなくて。経験していることでそれで語ってしまうと、現在のことが分からない部分があったりするので、具体的なイメージに基づきながらお話をしないといけないと片方で思い、もう片方でこれは第2回目や第1回目の少し出てきたところですが、あの法的な縛りとして、例えば、学習指導要領だったり、どのぐらいまで最低基準縛られてやらなきゃいけないのか、あれやらなくても宜しいのかっていう部分と、今現在子ども達に保障されている水泳授業はどのぐらいの質と量のものなのかっていう、両方確認しなきゃいけないことを改めて少し感じております。本会は、学校プールの今後の在り方になっていきますけれども、2回目、1回目の、特に2回目の中で確認したところでもあると思いますが、片方ではそうした施設の問題なんだけれども、その後ろ側に裏打ちされているのは、子ども達に対する教育内容と質をどういう風に保障するのかってことが張り付いておりますので、やはり現在の水泳授業がどういう風に行われているのかって事の確認もいるし、施設改修や、あるいは施設改修の予算がどれぐらいかかるか確認も両方いるので、両方確認しなきゃいけないかなと思ってるところです。もう一つは、これも2回目か1回目、2回目の間ぐらいから出てきたところですが、やっぱり子どもの学習保障の側面と先生方の働き方の側面、両方とも議論があるかなということになりますので、そういった点をちょっとですね、落とし込みながら検討できると良いかなと思ってるところでございます。で、本日は答申、一応議題としては高知市立学校のプールの今後の在り方に関する答申書の各項目の検討となっておりますけれども、先ほど申し上げましたとおり、委員長としてはですね、答申書の各項目の検討なんだけれど、実際には我々が考える際に基本的な事実認定しているところを、できるだけ広く押さえていこうというところで、今回も検討して行きたいと思っておりますので、まだ、一番始めからこういう言い方をするとあれですが、足りない部分があれば、事務局の方にまだまだ足りませんってお話をしたいと思えますし、こういうところがわからない、こういうことがあったらよりよく判断できるんですがいうところがあればですね、それも調べて頂こうと思えます。こういうのが出てきたら、このところはこれでわかりましたっていうのもあるかなと思えますので、そういう形で順々に抑えながら進めていかせて頂きたいという風に、委員長として思っているところでございます。さて、では本日は議題としては大きな議題1題で中項目2題に分かれております。形式的な形としては、①が高知市立学校の水泳授業の現状と課題ということで、これが答申項目としては1番の内容がコレに入るという形になります。まずはこれについて、少し私の方からご要望させて頂いたんですけれども、これまで委員の方からの出た質問に対してお答え頂くって形で、水泳授業についてのお話が進んでまいりましたので、少しまとめた形で、現在、

	<p>どういう形でやっておられるのかをまとめて少し知っておくのも良いかなという風に必要かなと思いますので、そういったところも含めてですね。事務局の方にはご準備を頂きたいという風をお願いしておりますので、この点から少し入って行きたいと思っております。ではまずは議題の①ですね。高知市立学校における水泳授業の現状と課題ということで、この点について、まずは事務局の方からご説明頂きたいと思っております。</p>
事務局	<p>―― 水泳授業の現状と課題 説明 ――</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございます。すみません、私の方で少し初めにご説明が抜かたかなと思うんですが、今頂いたのは第3回検討資料の一枚めくって裏側の目次で言うと、1番高知市立学校における水泳授業の現状と課題のうちの(1)学校プールと指導基準ということで、まずは学校教育法施行規則で、総時間数の標準と各教科項目の標準時間載っておりますので、これのご説明ですね。これと指導要領上で身につけさせるべき知識技能として何が載っているのかっていうのと、各学校それぞれの指導はあるけれども、市教育委員会レベルで全体として把握しておられる水泳授業についての外枠というか、世論的な骨格の部分をまずはお話し頂いたということで、まず2番(2)じゃなくて(1)について頂いたという風になっているかと思っております。まずはここについて、何かご意見ご質問があれば頂きたいと思っておりますが、いかがでしょうか。お願いします。</p>
委員	<p>先ほどご説明して頂いた中で、その校外のプールを使用した方が、水に入っている時間が長く取れるというのはちょっとわかりにくかったんですけど、こういった理屈になるのでしょうか。</p>
委員長	<p>お願いします。</p>
事務局	<p>1時間学校の方で1時間授業を行った場合は、例えば一単位時間で小学校45分、または中学校50分と言うことで、その時間内で水に入る時間というのは着替えるとか準備とか、あるいは水からあがったあとの説明など除くと実はおそらく、ずっと水につかっているわけではないと言うことになります。一方、学校外のプールに出た場合は、移動時間の1時間、例えば加わって2時間とかいうことになった場合に移動、それから、プールに行ってから説明と準備も含めて2時間セットであるがゆえに、水に入ってまあ水泳する。いわゆる実技でプールの時間っていうのは1時間学校でやるよりも2時間セットになった方が長いだろうという風な説明をしております。</p>
委員長	<p>今お話しされておられるのは、1回1回の水泳授業をとった時に、学校プール</p>

だと 45 分 1 セットになっているので、実際水に入っている時間っていうのと外に行くのと 2 時間。例えばセットにするとその中で入っている時間を比べるとプラスにとられるので、それを年間何回繰り返せるかって言った時の相似関数は別ですよ。なので、学校プールだったら例えば 8 回とか 10 回とかプール授業できれば 1 回の水に入っている時間×8、×10 になるけど、外の施設に行っている場合は 5 回とか 4 回しか行けないとすると、長く入っていても掛け算は 4 回とか 5 回になるので、全体に一年間で子ども達が実際水に入っている時間は別に外にいた方が長いというわけではないですよ。今の 1 回の授業時間で比べた場合ということですね。

事務局

トータルで言うと、そういうことですね。

委員長

よろしいでしょうか。

委員

やっぱり何かを比べるときは同じ条件で比べたいので、じゃあ学校現場で 2 時間続きのコマをとれば長く取れるよねっていうことで良いですか。

事務局

おっしゃる通りです。

委員長

はい、ありがとうございます。はい、他にいかがでしょうか。ただ、今、ご質問頂いた多分というか重要なことで、やはり我々、様々なものを比較考慮しているところがございますので、その際に我々比較しているものが、果たしてどこどこで比較しているのかは、繰り返し多分出てくると思います。1 校あたりなのか、1 年あたりなのか、それとも何年あたりなのか、それとも 1 時間あたりなのかっていうのは、少し我々も意識しながら中で検討して行きたいと思えます。どうもありがとうございます。では(2)のですね。水泳授業の現状からなんですけれども、市教委の方で、全ての学校の現状について細かい時間まで、多分把握しておられるわけではないだろうという風に思っておりますので、その点について、今回本会議は、実際に学校現場で子ども達の指導にあたっておられる先生方に加わって頂いておりますので、ぜひ委員の先生方から、その辺、自校でのプール授業についてどのようにされておられるのか、少しご紹介頂ければですね。我々も具体のイメージが広がって良いかなという風に思っておりますので。それについて少しお願いもしておりますので、お願いしてもよろしいですか。

副委員長

はい。小学校の現場の先生に聞いてみますので、今の小学校でどのように水泳の授業が行われているかっていうのをちょっと詳しく説明していきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

委員

失礼します。授業の実際ということですので発言させていただきます。資料の後ろの方に Let' s Long Swim と写真をたくさん使った資料を配布させてもらっていますが、今年の7月7日に本校で行われた六年生の公開授業の様子をまとめた資料です。体育の学習内容、水泳であれば泳ぎができるようになる、その動きをより高めたりするということで、運動技術の学習が1つ、それから仲間と関わったり、まあルールマナーを守るといった社会的行動の学習の2つが思惑で、問題解決的な学習を進めています。資料の方でも小学校のプールの授業における活動の様子や指導の方向性を示しているんですが、運動技術の学習と社会的行動の学習と合わせて。写真でも子ども同士が顔を突き合わせて、話し合いをして意見交換したり、活動をどうやって工夫していくかっていうことで、認知的な学習を絡めながら、児童は運動って楽しいな。気持ち良いな、仲間と関わりながら学んで面白くなって感じながら、まあ情意的な学習を目標に位置づけながら、豊かなスポーツライフの実現に向けて、身体育てと心育てのいずれも目指しています。命を守るための水泳技能の習得はこの水泳運動の領域では欠かせない学習内容ですが小学校体育が目指しているのは決して技能習得のみならず、学習指導要領が目指す三つの資質能力の育成です。公開授業では2クラス53名6年生2クラスしかありませんが、11時間計画の単元を設定していました。ここの写真の様子は単元の終盤になります。先ほど1時間の45分の授業の扱いについてお話があったんですが、もう子ども達は休み時間のうちから、素早く体操服に着替え、単元の終盤ともなると、準備運動も素早く進ませることができると、水温や気温に応じた体の慣れも早いですから、活動の時間ってというのはすごくたくさん確保されているように思いました。練習方法や練習の場を選択しながら、バディやグループ、それから全体での意見交換と情報共有しながらだけでなく、見るとか知るとか支えるとかいった体育の学びや喜びを感じながら、生き生きと学習する姿が見れました。プールという環境が学校に設置されていることで、この11時間、実はオリエンテーションと言って水泳運動の学習が始まる第1時間目や単元計画がまた別の水泳の決まりであったり、プールの使い方についての学習を必ず、年度が変わるたびに毎年新しい学年になってもします。1枚めくって裏を見てもらうと、水泳の水着に着替えた子ども達が体育館にいる描写がいっぱいあると思いますが、これはオリエンテーションの日などに、体育館を使って、まずは、部屋の中でというか壁に囲まれたところで、黒板を使いながら決まりを確認したりする姿であったり、5年生、上級生の下で踊っているのは、集団宿泊訓練が近かったためなんですけど、普段の体育授業の発展で、水泳授業になっても環境が変わるのも仲間とかかわりながら学習するよというようなことで学習を進めていますし、体育だけではなく、校内の研究としてこうした授業の様子は教員で共有しながら学習を進めていくことだと思えます。この短期集中的に11時間程度の学習が毎週毎週、2時間から3時間繰り返されて、年間90時間から105時間確保されている体育授業のうち、1割を超える10時間程度、プール開き納めも含め、それから着衣水泳なんかも入れると、12、3時間プールでの活動が確保されるかなと思

ます。ボールや陸上や器械というような他の領域とも含めて、相当な割合で充当されているのではないかなと思います。授業時間数が多いということは、水泳運動を学ぶ喜びを感じる経験が増やせるということになります。授業時間の長さより授業回数を重ねて運動経験を何度も何度も繰り返し味わうということがすごく子どもの達成感を増やしたり、運動技能を高めるという成果が上がるのではないかなと思いますし、指導者にとっては指導と評価の一体を目指した授業改善を進める機会にもなりますので、学校規模にはよりますけど、安全管理面からもこの水泳運動は複数指導法で学年団が数名でプールに行き、担任しているクラス以上の人数の子ども達を見取りながら声をかけたり、子どもの理解も含めて、学習を進めています。なので、授業はさまざまな他者との関わりも含めて、運動技術や社会的行動、それから認知的な思考判断を育みながら、指導者である教員は担任するクラス以外の児童理解、指導と評価の一体化の実現に向けた授業改善が行われます。民間プールでの指導を考えた場合でも、学習内容については学校現場と同様であることは間違いありませんが、運動技術の学習については、より専門的で高度な指導が受けられる。それから監視員がいて、安全の管理ができるということと、それから施設環境が天候に左右されずに維持管理体制も整えているというようなことは、学校プールにはない相違点ではないかなと思います。懸念されるのは教員の指導力ってところが低下してはダメだなと思いますし、評価評定というところでは成立するのかな、やはり指導者が指導する上で評価が可能になっていますので、そこが気になるころではあります。全国のどの地域においても、一律に一定水準の教育を受けられるように定められた学習指導要領が目指す体育の学習、その領域の中に水泳領域が継続するのであれば、その学びを保障するための施設環境として、どうにか子ども達に提供する必要があるかなと思っています。ちなみに本校は授業外ではサニーマートの親子水泳教室親子で入水を原則として1学期末に6家庭が参加して7日間実施しました。あと校内で5、6年生が対象ですけど、難泳者、2.5m泳ぎきれることがまずできていない児童対象に、10名参加で2日間実施しました。夏季休業中に入ってから、水泳記録会に向けた強化練習が今、行なわれていますが、なかなか日が取れなくて、6日間で4、5、6年生が33名参加しております。

委員長

はい、ありがとうございます。そのまま続けて、お願いします。

委員

我が校の現状ですね。先ほどと重複するところはできるだけ省いてお伝えしたいと思いますが、本校450人規模の学校でして、各学年に3クラスずつあります。全部16学級プラス特別支援学級があります。先ほどもありましたけれども、1週間に5日×6時間で30コマもあると思うんですけども、複数クラスで複数教員がつけるようにするために複数学級で必ず行うようにしていますので、2クラス以上の学級で行うようにしましても、28コマぐらいは今埋まっている状況です。それと小プールと大プールとそれぞれありますけれども、1、2年生の低学年は小

プールで学習を行ない、3年生以上は大プールで基本的に学習を行うようにしています。先ほどの資料を見て頂くと、大プールは皆さんイメージつくと思うんですけども、小プールは裏側につけて頂いている資料を拝借して申し訳ないですが、見て頂くと、腰ぐらいまでの高さのプールに基本的に2クラスなので、多分写真見て頂いて、これぐらいの人口密度の中で学習を行っている状況になります。先ほどもありましたけれども、水泳授業の学習を年間10時間程度行っているんですけども、県の体育関係の書籍等見ましても、大体10時間程度が割り当てられています。これをおそらく学習指導要領につけて頂いておりますけれども、その指導事項の指導内容を取得するのに概ね、ほとんど児童が習得するのに指導要領は2学年で示されていますけれども、各学年10時間程度必要なんだろうかということで、各計画の本校も11時間で計画していますけれども、割合に当てられています。また私どもとしての実感としまして、やっぱりその程度は必要だろうな、ちょっと苦手なお子さんが少しもぐったり浮いたり、実感としてできるようになったりとか、ちょっと目標としていた距離まで泳げるようになったりというところで、やはりそれぐらいの10時間ぐらい必要なんだろうなと思います。指導要領を載せて頂いておりますけれども、各学年大きく二つの内容に分かれてきます。低学年であれば水の中を移動する、それから潜るといった運動あそび、中学年であれば浮いて進む運動、それから潜る運動、高学年はクロールと平泳ぎに分かれている。泳ぐということと、それから安全確保につながる運動ということで、こういう内容の別れ方をしておりますけれども、授業のあと、展開の仕方の確保は小学校各担任それぞれいうところがあるんですけども、概ね半数ずつぐらいの時間を割り当てながら、それからひとまとまりの授業の単元と申しますけれども、単元の中で前半も、基礎的に「こうやって泳ぐんですよ」「こうやって浮くんですよ」と指導をしながら、後半、その課題を選択する時間に持って、それも大体半分ずつぐらい10時間であれば6時間5時間とかいう風な、概ねですけども、そういう割り当て方をしているので、やはりこの10時間ぐらいの時間は必要だろうなと感じているところです。少しちょっと話はそれるかもしれませんが、コロナの影響がありまして高知県であまり実施してないっていうところは聞いてないですが、同時にプールに入る児童を制限しないといけなかったりして、複数教員つけるように配置はしながら、担任一人でやっていた。まあ2、3年の始まった時期ぐらいはしていたことがありました。その時、やっぱり時数が減って、本校でも1/3ぐらいから3時間4時間の実施にしかできなかった学年がほとんどだったんですけども、やはり、今年、去年あたりから通常の形で行われているんですけども、やはりそこで学習した時に、その2年間3年間時数が少なくなっている影響は、こちらが実感するぐらいにあって、その積み重ねであったりとかっていうところは、時数が少なくなると、それだけの影響があるんだろうなということ、本校、今年、去年あたりからあの実感しているところであります。県外なんかその全く実施しなかったというところもあるみたいなので、そうすると2年間やらなかった低学年の学習まるまるに抜けたままでどうす

るんだらうと、どうしようもない話なんですけれども、今回のことでその時数が少なくなったりすると、そういった影響もあるのかなということを感じているところでもあります。

委員長

はい、ありがとうございます。そしたら一応、中学校の校長先生方に、全体としてのお話で構わないんですが、ちょっとだけ頂きたいと思います。

委員

中学校の方では学習指導要領にもありまして、男女共修という体制が始まっています。男女分かれて男子は男子、女子は女子という形で水泳授業は行ってきましたけれども、今はもうその中で男女一緒に指導を行うということが始まっています。まだ全部の学校が全学年で実施することにはなっていないかもしれませんが、例えば私の中学校であれば、今年の1年生の方から順次共修が始まっています。2年生、3年生はまだちょっと別でやっておりますけれども、そういう意味では、うちであれば472名の生徒がおりますので、シーズンはずっとプールはフル稼働という形で終業式前日まで水泳の授業を行っているとなっておりますけれども、その授業数のプール確保というところで行けば共修で行けば少しちょっと余裕もでてこようかなと。ただ、これがまた移動する事を考えると、移動1回に移動する人数が多くなると言うことがあったりとか、そういったことも考えていかなきゃいけないと思うんですけれども、今、運用している中では大きな支障はないかといった現状です。

委員長

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。ということで、今本当に現場でご指導にあたられている先生方から、水泳授業の現状をお話頂いたところですが、委員の皆様からご質問等あれば頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。すみません、いきなり委員長からってあれなんですけど、片方で高知市教育委員会の働き方改革の推進委員会の委員長もやってるので、そちらから気になることもあるので、ちょっと今授業の中について非常に色々教えて頂いて、具体的に子ども達がどんな感じで学べるのかなっていうイメージが膨らんだんですけれども、一方で、例えばプール使用の条件は、気温とか湿度とかで多分出来る日、出来ない日ってあると思うんですが、この辺はどんな感じになっておられるんでしょうか。あるいはどなたが判断されておられるんですか。

副委員長

決まった水温気温があって、朝の段階で当番制みたいな形で調べる当番がいます。それが例えば職員室の黒板とかに気温が何度、水温が何度で今日はプールができますとかっていうのでお知らせします。あと、天候ですよ。その雷注意報とか出てることとかがあるので、私の場合は、そのパソコン上で雷データみたいなやつを見ながら、近くに雷が落ちていないかバツ印とかでこう表示されたりするので、高知市の近くで落ちているところや落ちそうなどの動きですね、九州からどんどん雷が近づいてくるみたいな時は中止を出しますが、音が鳴っていなかったりとか、

	<p>これはまだ大丈夫かなっていうときは注意報が出てGOを出す時もありますし、そこはその状況に応じているところですが、他の学校もそんな感じですかね。</p>
<p>委員</p>	<p>同じです。学校でのプール管理規程っていうのを教育計画には載せてありますので、そこに温度の設定何度以上、合計して45度以上を見るとか、塩素濃度もそれぞれに記載してある通りです。気象庁のナウキャストの中でハッキングをして注意喚起をしながら同じです。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。これ、事務局の方をお願いしたいと思うんですが、全部とかはないので、他校の先生方の学校でも良いので管理規定は、多分答申書入れた方が良くと思うので、少し確認できるようにして頂きたいと思いますので、お願い申し上げます。校長先生方、雷レーダーを見ながら、まあそうですね。高知県の場合は、かつて他県に大会に行って、雷が落ちた時に判例が出てますので、そうするとそれも学校の責任としてかかっているってことなんですね。ちなみにすみません、学校教育に関わっての先生方の全体の業務って、具体的にどんなのがあるのか、少し教えて頂ければと思うんですが。まだ全体と言うより、個別というより年間の。</p>
<p>副委員長</p>	<p>年間プールの管理がありますので、毎日の薬の投与。これ学校によって機械によって種類がまた違うんですが、それを補充したりとかする業務があります。後、中休みとかに塩素濃度を測って、プールが正常な状態で使われる塩素濃度にされているかっていうのを見ます。薄まってきているようでしたら、薬を足したりとかしながら一定の塩素濃度を保ちます。大変なのが土日です。特に天気がすごく良い時の土日なんかは結構塩素が飛んでしまって水質が落ちて、緑色に藻が生えてくる様な事も過去にありましたので、そのあたりは気をつけて金曜日には塩素濃度をかなり上げておいて土日を持たすとか。中にはやっぱり土日にもちょっとプールを見に来て塩素濃度を測っている体育主任の先生もいると聞いています。あと何かありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>プールのシーズンが始まる前に、プール清掃しなくてはいけないので、私の学校は山の学校ですので、近くの山から落ち葉などが入ったりすることもあります。6年生に手伝ってもらいながら掃除を行うんですが、職員がほとんどの作業はやっていくかなと思います。高圧洗浄機を業者の方から借用しまして、1日で終わらす作業が、放課後の業務として入っています。シーズンオフになると、プールポンプは停止しますので、水を張ったままでそのまま維持ということになります。それから、シーズン中、運用管理のところはプールサイドに休憩用というか、熱射病とかの心配もありますので、テントを運動場から運び込んで屋根をつけて、そういう環境設定をすることもありますし、テントの屋根が雨風がくる地域であれば、飛ばされな</p>

いように重りをつけるだとか、反対にこう台風が近づいてくると、屋根を外して骨だけにして、壊れないように管理しなければいけないことは新しいことでできます。

委員長

はい、ありがとうございます。いかに先生方があの子ども達の安全管理に配慮されて、プール授業の準備されていることがよく分かる話だなと思ったところです。他にいかがでしょうか。先ほどもありましたけど、今昭和の時代からのプール事故がいっぱいありましたので、今もほとんど複数クラスで複数監視体制で、管理体制やっておられるということですね。はい、いかがでしょうか。おおよそよろしいでしょうか。本当あのすみません。私の方でもう少し工夫をしてですね。第1回目とか2回目のとこでこういう話をもうちょっとまとまって聴いていくと、もっと我々スムーズな議論になったかなと思ひまして反省しているところがございますが、よろしいでしょうか。事務局に置かれては、本日今ご紹介頂いた事例は極めて本会でも重要と思いますので、少しおまとめ頂いて、本会の答申のところにまた先生方に確認して頂きながら載せていきたいと思ひますので、またその点については、議事のところでおまとめ頂くというご説明頂ければと思ひます。よろしくお願ひします。では一応、今のところで一番の高知市立学校における水泳授業の現状の部分がおおよそ埋まる。(1)から(3)までが埋まる形になっているかなと思ひますが、ここまではよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。では(4)以降ですね。プール施設の現状と課題のところですか。これまでもここについては何度か事務局からご説明頂いているところではございますが、今回、答申項目の検討という形の中で進めておりますので、改めて簡単で構いませんので、この部分新たに付け加えているところがあれば、それも含めてご説明頂きたいと思ひますので、よろしくお願ひ申し上げます。

事務局

――①「1 高知市立学校における水泳授業の現状と課題」の説明――

委員長

はい、ありがとうございます。基本的には第1回からご説明頂いているところですけれども、資料充実をはかって頂いているということで、現状までの修理をしたところについての情報、あるいは修繕ですね。あるいは、今年度判明したプール施設の不具合、あるいはその他問題起こってないけれども現状どんな感じになっているかの写真データなどを付け加えて頂いているところがございます。この点について、こうなっているよということになるわけですが、何かご質問、ご意見あれば頂きたいと思ひますが、いかがでしょうか。まあ、この点についてはこうなっているよということですので、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。これがですね。基本的には答申の中の一番のところのほぼ中のベースになってまいりますので、また気が付かれたことがこんなに入れたら良いんじゃないかとかですね。こういうところはいらんないんじゃないかとあればですね。随時出して頂ければ、

	事務局の方をお願いして反映して行きたいと思いますので、また、お時間あるときに、どうぞお願いします。
委員	あの一点だけですけど、朝倉中はここで使えていないので、前半のこの不具合の方にやったほうが良いんじゃないかなっていう気はします。
委員長	はい、ありがとうございます。一応、朝倉中は(5)の②に一応入っているので、後半部分に出てくる写真を含めて(5)の方に入れてしまった方が、2つ出てくるとどっちがどっちの位置づけだろうかわからなくなるので、その通りだと思いました。事務局の方ご訂正のほうお願い申し上げます。
事務局	分かりました。ありがとうございました。
委員長	はい、ありがとうございます。よろしいでしょうか。では議題の(1)①の「高知市立学校における水泳授業の現状と課題」については以上とさせて頂きたいと思います。②でございます。「プール施設の更新」と「公立プール及び民間プールの活用」との費用比較」ということで、これが第5の項目になるところです。今回新しくですね、かなりいろんなデータが加わっておりますので、少ししっかりと見させて頂く必要があるかなと思っておりますので、まずは事務局の方からご説明頂きたいと思います。よろしくようお願い申し上げます。
事務局	――②「5 「プール施設の更新」と「公立プール及び民間プールの活用」との費用比較」の説明――
委員長	はい、ありがとうございます。大分資料のご説明でございましたので、少し見て頂くようにしようかなと思いますが、ご質問頂ければと思いますが、いかがでしょうか。 前半部分のところは公立および民間プールについて現状。あたって頂いた結果、使用が可であるとか、占有ができるかできない話であるとかということでございますので、これはこういう形で、今、可能性の議論しているところですので、可能性としては確認されたということでございます。もっと他に調べておいた方が良いことがあれば上げて頂ければと私は思います。また後半部分は基本的には現状、市の方で出して頂いた試算ということでございますので、これも我々が判断するにあたって、これで充分かどうかという点から、ご意見頂ければと思いますので、いかがでしょうか。
委員	たくさん聞きたいことがでてきたんですけど、まずは前段のところ7施設の受け入れ状況のところ資料を出して頂いてますが、結局その7施設のうちの4施

設、5施設が休館日でないと占有できないっていう意味で良いのかなっていうところで、前回もちょっとお話をさせて頂きましたけど、今回、朝倉中学校1校、それこそ1年生と2年生の2学年だけで、しかもかなり授業時数を減らして、半年くらいかかって市営のプールに行っているという、この答申がこの先、どこまで有効なのかわかりませんが、そこで59校の施設を全部受入れしたらというような考え方が出ているところを考えると、高知市全体に当てはまることを考えたときに、とてもこの7施設で受け入れができそうな気がしないなと感じたところです。各学校で、学年ごとに授業をやっている状況が多いかと思うんですけど、59校で一体何コマいるのかという数字をこの7つの施設にはめれるのかというデータがやっぱり欲しいなと思います。物理的に大丈夫なのかなと思いました。その後段のところの費用比較のところでは手前の資料で、解体費用は1,200万から2,200万、プールを新たにすると2億4,000万～3億1,000万の数字をわざわざ出して頂いているのに、ここの総費用というところが全部高いところをかけるっていうのはそういう出し方をしているのが少し気になったところです。施設の維持管理費用に、修繕費用という項目が令和4年度の実績でそのまま載っているんですけども、前回の話や、それから今回のそのつけて頂いている資料でFRPのメリットとして、30年ぐらいはメンテナンスの費用がほとんどかからない、そこがメリットという説明をしたにも関わらず、ここで30年、そのまま修繕費用というものがそのまま残っているのはちょっと疑問になったところです。バスの経費についてですけども、この全体の59校のことを考えたときに、スクールバスと大型のバスにしたっていう説明でしたけど、全体を動かすっていうことになると思うんですけど、ここの費用なんかも上がってくるんじゃないのっていうところです。民間プールの施設利用料も安いところと高いところの差が大きくて、これを単純に半分にするだけでは、高いところの近くに大規模校があった場合は費用も上がってくるのではないかと心配になったりします。なので、そういう出し方がちょっと気になったので、どうしてそういうことなのか、もう少し計算できるような数字を出してほしかったなと思いました。

委員長

はい、ありがとうございます。1点目は少し記述が僕も気になっているところで、例えば21ページだと学校の21ページの表の中の学校向けの2つ目の水泳授業での占有のところでの文章が○になっていた上で、休館日にメンテナンスなどを避ければ可能って書いてあるんですよ。なので、これは休館日しか駄目って読めるわけですね。23ページのBだと水泳授業での占有のところは、休館日に行われるメンテナンスなどを避ければ可能ってなっているので、別に休館日じゃなくても可能だよなっていう文章ですよ。これだとあの少しわかりやすい表記で、少し統一して頂かないといけないので、その辺はお願いしたいと思います。今お話し頂いた通り、全体部分のシミュレーションをして頂いた方が、多分我々確認がしやすいので、学校全体、学校数に合わせた上でのそれをフィックスさせたシミュレーションは、どの

みちして頂いた方が良いのではないかなという風に思います。少なくとも1番目にお話しされたように、本答申は、あくまで検討委員会の答申という形になって、教育長にお渡しすることになるわけですが、答申としてもどこまで踏み込むかって、今後また具体的に書くならばの中で議論になっているわけです。どこまで踏み込むかっていうのはどういうことかという、A案で行けるんだ。B案で行けるんだって書き方が可能かどうかという、多分、そこまでは行けないかなという風に、若干思っております。そうした時に、例えばどういう条件をつけるのかとかだとか、どういう形での今後のところを設定してもらうように要請するのかって書き方も当然出てくるって言った時に、何校までなら、これっていけるシミュレーションなのっていうのは、我々事実ベースとして知っておかないと、書き込みが甘くなりますので、そこは少し事務局の方、汗かいて頂くことになるんですけども、全体チェックした上で、もしやるとしたときに、どこまでの数が耐えられるものなのかっていうシミュレーションはして頂く必要があると思いますのでお願いします。例えば、何校まで可能かという書き方になるのか、それともあの2年に1回ならできるのかになるのか、それとも小学校は駄目だけど、中学校だけならいけるよねって書き方になるのか。まあ、いろんな可能性もあるし、そもそも無理なんじゃないという話もあったりするわけですが、そこは出てこないとわかりませんので、ぜひ1回シミュレーションをして頂ければ思うところです。後半部分、例えば、最後に頂いたところなんかはまだ2施設しか多分ご回答頂けないので、この部分出てきた時に、もし他の2施設が高額になってきた場合に、単純に平均で良いのか、それとも中央値をとる必要があるのか、いろいろやり方はあると思うんですが、代表値をどの形で取るのかっていうのは少しシミュレーションする必要があるよねって気はするところですね。本委員会としては出てきたどの数字が正しいかどうかという形、あるいはどの書き方が正しいかどうかではなくて、この形でシミュレーションした時に、我々はこういう判断ができるっていうのが多分重要ですので、そこはいくつかのパターンが出て来て構わないと思います。ただし、この場合はこういう理由でこの数字が上がっているっていうのが明記されれば、よいのかなと思いますので、少しこれも手間になるかもしれませんが、もう少し事務局の方で工夫して頂ければと思います。そんな感じでよろしいですかね。先ほどから今、ご質問頂いたこともそうですし、僕が初めにお話しした通り、これが叩き台となって出来上がってきますので、我々の判断に必要な物はここに入れてもらわないといけないので、ぜひそんなのも、ここはどうしてこれなのとか、こういう数字もあったほうが良いとか、こういう検討材料はないのって出しているんだってどんどん言ってこれをブラッシュアップしていきたいと思っておりますので、何かあれば、他にもよろしくをお願いします。

委員

すみません、ありがとうございます。先程シミュレーションの話が出ていて、私も同じようなことを思っていたので、検討の時に考えて頂きたいのが、低学年

の学習を行うにあたって小プールの存在が不可欠で、足がつくはもちろんですし、例えば手をついて、あの水遊びができるような場っていうのは、必ず必要になってきますので、そう考えた時に、今出して頂いた、公立及び民間プール施設にはそういった施設とかが無いように見受けられますので、そのシミュレーションして頂くときに、小プールだけ残すっていうことになるのかどうか詳しくわからないんですけども、そういったかたちは残した上で検討頂かないと小学校の学習の保証は難しいのかなという風に思いますので、そういった形が取って頂けるとありがたいです。よろしくをお願いします。

委員長

はい、ありがとうございます。この点も、また別のお話ですが、事務局におかれては、検討をお願いしたいと思います。どこまで細かくするのかっていうのはなかなか難しいところで、いくつかの自治体の学校統廃合の委員会とかに入っていると、少子化が進むから実はだんだん安くなるよねっていうことで、バスの借り上げ費用も、プールの費用も子ども達の数もどんどん減っていくので、30年でこれシミュレーションすると随分30年後は安くなって、民間プールも借りやすくなるというシミュレーションも成り立つ気はして、日本の場合、住民基本台帳で、子どもの数が分かっているので30年のシミュレーションは無理でも、向こう6年をシミュレーションしたうえで9年間のお示しは可能ですからね。それをフィックスさせるのかという議論はあたりするんですが、どこまで細かいとどこまでやるのかっていう議論はあるとこだと思います。今回のところはできるだけ出すだけ出して、我々知りたいことを知っておかないと判断できませんので、出すだけ出したら良いかなと思っておりますので。他にいかがでしょうか。

委員

同じ話になって申し訳ないですけど、そのシミュレーション、私も非常にちょっと怖いっていうのは、先ほども出されてましたけど、すごく感じました。全部の学校が行った時にというシミュレーションとか、バスとか。一度に行って本当に回るのと素朴に感じますよね。これ聞いていると本当に、こういうケースだったら、今朝倉中が行ってできるだけシミュレーションのような感じがします。そこは相当シミュレーションの中でやっておかないと結果として多分事務局の方が今後これをベースでやったときに困るんじゃないかなと非常に感じました。その場で委員長も言われてましたが文言も違うよねという話もありましたので、場合によっては、例えばこのA3の中に5つのなかにまとめて並べて同じ表現の中で、文言が違わないようにやって、その中で優先すべき事項とかがあったりとか、休館日しか使えなければ優先順位が低いかもしれないかもしれませんが、全部使わないともう全校が回らないということであれば、なんかそこは少ない中で使っていくというところかなと思いました。それもちょっと書いているのかもしれないんですけど、最初の方でも委員が言われていました授業、2コマ一緒にやることによって、結果長い時間が出来るけれども、トータル時間としてはできないんだよねっていうことを、メリット・デメリ

ットあるのかなと思ったので、先生のメリット・デメリットとところがあるけれども、ここでやることによって、学校でできないことによるメリット・デメリットも含めて、ここでやるんだよってという判断としてはいるんじゃないかなと思いました。

委員長

はい、ありがとうございます。最後の部分は多分ですね。改めて目次で言うと、3番であるとか、あるいは本日頂いた先生方からお話をまとめて頂くと、改めて書いて頂く必要があるかと私は思っております。本文に入るかどうかは別にして今頂いたところは必要になっております。また、事務局の方も先ほど申し上げた通り、対応お願い申し上げたいと思います。他にいかがでしょうか。私、気になっているのが、本会の性格からしたとき、これは答申のたたき台になっていくものなので、例えば35ページの費用比較の第一パラグラフの3行目なんですけど、財政面の負担軽減効果を検証しましたってあるじゃないですか。我々は多分、答申のたたき上げの時に、財政面の負担軽減効果を検証しないんですよ。我々がやっているのはプールの改修費用等が莫大に掛かっていった時に、代替の方法が今あがっている。それが結果、ほとんど変わらないんだったら今まで通りプールやろうって話になるし、それで違う形が取れるんだったら違う形もあるかもしれないと議論しているの、予算削減をここで議論しているわけではないのでここは、少し表記を工夫して頂かないといけないといけないかなという風に思っております。本会の特質からして、やはりあの水泳授業の重要性、高知における水泳授業というところから入っているところがありますので、費用削減につながるみたいな表記は本会で直していけば良いわけですがけれども、少し工夫があるかなと思っておりますので、また検討頂ければと思うところです。はい、他にいかがでしょうか。

委員

よろしく申し上げます。37ページ(4)に、公立プール・民間プールで水泳授業を実施した場合と書いているんですけど、20ページの「5「プール施設の更新等」と「公立プール及び民間プールの活用」との費用比較」に出ているので、この項目だけ見ると何を比較したのかちょっとわからない表現になっているので、具体的に何を比較しているのかとかいうの書いておくべきだと思いますし、これが増える業務と減る業務を書いているんですけど、結果としてどちらの軽減になったのか、負担になったのかっていう結論的なものがないので、恐らくこれ朝倉中学校しかないと思いますので、そこあたりはもう少し、結果どうなのか、どちらが楽になったんだとかテーマが増えたんだとかいう部分も書いていると良いなという風な気がしました。4ページに緊急度Aってというのが強めに出ていることについてですが、これがこの診断結果の点検評価の「1」とイコールなのか分からなくて、ここで緊急度っていうのがいきなり出てくると、そうしたらこの最後の、別紙1「高知市立小・中・義務教育・特別支援学校 プール建築年度状況調査(学校番号順)」の中にある緊急度はどうなんだって議論になってくると思いますので、できれば1項目にまとめ

<p>委員長</p>	<p>られたら良いんじゃないかなと思いました。</p> <p>はい、ありがとうございます。えっと後半部分は、第1回目からいろんな資料をつきあわせているので、割とこう見てしまいますが、お話を頂いてる通り、資料の中での整合性からするとこの部分は説明がないといけませんので、このまま残すか、それとも書き方を変えるかは少し検討した方が良いかなと思います。はい、ありがとうございます。また、記述箇所に関してもとりあえずという形で書いて頂けるとと思いますので、また、どこにどこをまとめるのがあると思いますので、その点もまたご意見頂ければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先程のあの 37 ページですが、もし可能であるならば、この業務の差で、一番スムーズに前のレベルで行くのであれば、費用比較できれば非常に流れてとしては良いのかなという風にも感じました。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。この部分、なかなか今お話しされているのは、その通りであると思いつつながら、一方で朝倉中学校の場合になってるんですが、答申案まで行った時には、先ほど頂いたように、一般的に学校において先生方が働いている業務が一覧として並び、この中でどういう形で変化していくのかっていうのがわかりやすいかなと思いますので、変化の先を見る時に朝倉中学校の事例を使っても良いし、他にも何か example などがあれば使って頂くという形が良いかなと思いますので、もう少し全体にわかりやすい表記の工夫があっても良いかなと思っておりますのでよろしくお願いします。はい、だんだん良い時間になってまいりましたが、いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>もう一つだけちょっと追加で資料を渡して頂けたら良いと思うのがこの 35 ページのところのプール施設更新に係る費用で、この表は 30 年ごとに壊して新しいのを作るという費用の表と思うんですが、例えば、朝倉中学校、今回の場合、やりかえたらさっき言っていた 2 億だか 3 億だかかかる可能性があるっていうところですけども、とりあえずプール槽の入れ替えをするのに、まあ 1 億円ぐらいで入れ替えて使えるようになるっていうようなことだと思うんですが、30 年ごとに全部やりかえなくても、そういった方法でプールが使えるようなやり方があるのであれば、そういったやり方での費用の計算というのを出して頂いたら、分かりやすいのかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。僕は事務局にやって頂いても良いかなと半分思いつつ、今回は、朝倉中学校は 1 億円の改修でいけたけれども、必ず場合によっては 6,000 万でいける場合もあれば、場合によっては 1 億 5,000 万かかる場合もあるとなると、どのぐらいのパーセンテージでいくらぐらいかかるかっていうのをシミュレ-</p>

シヨンの基盤に据えたうえで、それをフィックスさせてのシミュレーションになるので、多分、膨大な前提はおっかないもの。それこそ今流行りの生成 AI に聞いたら答えてくれるのかもしれないですが。なので、たぶん今事務局の方でやっているのは、最大限かかる形で考えてやっておられるんだっていうのと、どの学校であれ 30 年に 1 回はいずれかのところで建設までやらなければいけないことが出てくるだろう。それを基盤に据えてというところですね。それが 3 億かけて建築しなきゃいけないのか、でも 25%の確率で 1 億で行ける、18%の確率で 8 千万で行けるっていうのをシミュレーションしてっていうのはなかなか難しいかなって気がするので、委員長としてそこまで事務局にこちら側からパーセント発生確率まで推測してもらうのは心苦しいかなと思うところなんですけど、もしいくつかのバージョンが出来るのであればやって頂いても良いかなという気がします。なかなか難しいんじゃないかなという感じはします。なので、いくらで済むのが何パーセントの確率であるかっていうのが想定が難しいかなって感じがするので。逆に今頂いたお話はそのとおりでと思うんですよ。なので、毎回 30 年で 3 億かかるというわけでもないだろうっていう前提は正しいことを話されてると思うんですね。なので、シミュレーション難しいかなと思いつながら、何か良い案があったらやって下さいというお願いはしたいと思うんですけど。我々としてはこれは逆に、事務局の方はこれは最大限だよっていうことで、最大限かかるなら最大限という形で研鑽をして頂いて、これで正しいというところを出して頂ければ我々は「最大でこれなんですよ。」っていうお話から発信できるので、そこは確認をして頂ければと思います。中途半端な数値ではなくて、規定としてわれわれができる数値にして頂ければ良いかなと思います。30 年に 1 回、2～3 億、本当にかかるかっていうと、30 年に一回 1 億 5,000 万で済んで 15 年まだ寿命が延びたって可能性も当然あるので、そこをどういう風にシミュレーションするのか、僕の頭の中ではちょっと思いつかないので、チャット GTP とか生成 AI の新しいやつだとやってくれるのかな。あとはあの貴重なご意見であることはその通りだと思いますので、そういう条件のものだとやっているんだということは我々確認をしておきたいと思います。他にいかがでしょうか。事務局の方に大量の宿題を出しているなという自覚はあるんですけども、よろしいでしょうか。事務局の方に確認なんですけれども、今、私の理解では、ここで行われているのは我々が今後答申案をまとめていくに際しての基礎的な部分についての共有理解とそのためのデータを今、出して頂いていて、あるいは検討していて、足りない部分はまた出して頂かないといけないのでというお話を今していると思っております。これが別に完成形でもなければ、次回に出てくるものもありますので、「こういったデータもありますか。」とか、「こういったのも聞いておいてもらえると助かります」というのが事務局の方に、何らかの形でメールとかで委員の方が個別でお願いしても構わないですよ。そこで今出さなかった質問がもう未来永劫質問できないという話ではないです。

事務局	<p>メールでも構いませんし、直接お電話でも構いませんので、ご意見等、調べて頂きたいことあれば、言って頂ければと思います。</p>
委員長	<p>もしお気づきになった点があったり、知っておきたいことがあれば、事務局まで出して頂ければと思います。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。では、今日の部分での5「プール施設更新等」「公立プールおよび民間プールの活用」の費用比較などについては事務局の方に改めて追加のデータをまとめて頂いて、それを確認しながら進めていく形にしたいと思います。では一応ですね。本日準備している議題についてはこれで終了ということになります。4その他、本議題についてでなくても構いませんが、委員の先生方から何か気になった点などあれば頂きたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>前回欠席してしまって。その中で第2回の検討委員会の資料を頂いて確認した中で、一つ気になっているところがありますので、この今日の資料の41ページの7「学校プール施設の今後のあり方」というところで(1)「基本的な方向性」ですね。その文書の中2つ目ですが、プール施設に不具合が発生した場合、各学校の立地場所や学校の事情を考慮したうえであらゆる手法(修繕もしくは公立・民間プールの利用・プールの共同利用)を検討し、当該校にとってより良い手法で水泳授業を確保していく必要がある。とありました。この部分の「当該校にとってより良い手法」で水泳授業を確保していく必要があると書いてしまうと、「当該校にとってより良い手法」とは修繕ですっていう前提が発生しないかなど。そういうことになると、公立・民間プールの利用とか、プールの共同利用という検討そのものが無くなってしまふということになると思います。書き方を修正した方が良いかなと思いましたので、ご検討頂ければと思います。</p>
委員長	<p>これ前回私が途中でお話を申し上げたところですけども、前回確認したのはあくまで答申項目の整理ということで、項目だけということになっておりますので、少なくとも本委員会において、第2回の資料のなか書いてあるものに関してはですね、水泳授業の必要性の部分はある程度了解が取られたところですけども、それ以外のところは、了解を取れておるものではないので、あくまでこういうかたちのものが載るだろうという、まあ example に過ぎないということになっておりますので、その部分を含めてまだ決まっていなくていうところでございます。本日の資料では、41ページの7学校プール施設の今後の在り方すべて、項目名だけで白紙になっているという風にご理解頂ければと思います。</p>
委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
委員長	<p>はい、ありがとうございます。本当に重要ではありますので。他によろしいでし</p>

ようか。

委員

素敵な学校ということで、写真も載せて頂いてありがとうございます。子ども達も良い経験と思います。多分少数派の意見になると思うんですが、この自分達の学校のプールが使えなくなった時に、よその学校に行くというのを、特別支援学校とか特別支援学級とか反対しなかったんだっていうのが、私ちょっとあーそうなんって思ったんですけど、うち一番下の小1が特別支援学級で、サニーマートの水泳教室がうちの学校が、昨日からなので、連れて入ったんですけど、そもそも学校の授業すらうちの子どもは入れてなくて、シャワーが怖くてその支援学級だけの授業もしばらく入れなかったんですよ。多動のある子とか知的のある子なんかもいるので、移動しての他の所行ってのプールなんてもってのほかなんじゃないのかって私は思うんですよ。うちの子軽いほうなんですけどそれでも、その状況で同じように他のまあ少数派なんですけど、そのほかの小学校中学校と一緒に扱えるのかなっていう所はすごくあるので、そこを掘り下げて聞いてほしいのと、もし、うちの学校のきれいなプールもそのうち壊れるということもあるでしょうし、そういう所に行かないといけない、お借りする場合もあると思うんですけど、そういう場合に、特別支援学級、特別支援学校についてはちょっと違う対応をしなければならなくなるんじゃないかなと思ったので言わせて頂きました。

委員長

はい、ありがとうございます。今回ですね。本会に関しては委員の先生方のご助力もあってだいぶ丁寧に丁寧に議論を確認しながら進めさせて頂いているという風に思ってるんですけども、最終的な答申をこう作って途中で、多分答申としての書きぶりのところですよ。今出ている中でも、小学校と中学校はどうも違いそうだと片方にあり、特別支援学校も当然として違うだろう、それを答申の中で我々が類分けして書くのか、それとも原則と例外という形で学校側あるいは教育委員会側の判断を然るべき状況に対して然るべき判断をしなきゃいかんよって形での枠組みをはめる書き方にするのか、いくつか選択肢はあると思うんですね。ただいくつか選択肢はあると思うんですが、今頂いた通り多分 59 校全部同じようにこうやれて書き方には多分ならないただ、細かく我々が振り分けして書けるかっていうと、そこまで細かくも書けない。そうした時には多分、こうした違いや例えば子ども達の発達段階であるとか、学校の状況などに丁寧に丁寧に対応した形でできるような仕組みにしないよって書き方が多分される、その書きぶりほどまで書き込むかっていうのは、多分7番を書く中で詰めていかなければいけない所だと思います。この辺は今良いご意見を頂いたと私思ってるんですけども、そういった所も丁寧に書き込んでいかないと、多分我々は我々でそれぞれ代表者、責任者といった所で参加しておりますので、そうした所も目配せしながらですね作っていかんやいけないというところで、またその点についても今のうちから少しずつお考えの方も作って頂けたらと思います。これは委員の皆様をお願いしたいところでござい

ます。どうもありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
はい、ありがとうございます。では一応これで本日用意されていた議題のほうはすべて終わりましたので、司会を事務局側にお返ししたいと思います。本日も委員の皆様活発なご意見をありがとうございました。

4 その他

5 閉会